

ジビエ処理加工で 里山地域が一つに

淡路市（興隆寺地区）

課題

- ・農産物の獣害（イノシシ）被害の増加。
- ・捕獲個体の焼却処分に代わる地域資源としての有効活用。
- ・地域住民の高齢化と減少。
- ・耕作放棄地の増加。



（ジビエ処理加工施設）

取組

- ・淡路市と興隆寺町内会が連携し、地域の課題解決に向けた話し合いを重ね、令和3年にジビエ処理加工施設を建設。興隆寺地区住民による合同会社を設立。施設の指定管理者となる。
- ・本格的な施設運営は、市内で野生イノシシの豚熱感染の確認がされたことから令和4年11月から開始。
- ・処理加工した精肉は、市内の直売所や飲食店に向けて販売。また、精肉だけではなく、脂身の少ない赤身を利用したペットフードの製造。
- ・施設には、興隆寺地区及び近隣地域で捕獲されたイノシシを受入れ、年間で約200頭を処理加工する計画。
- ・イノシシの施設への搬入は、狩猟者から連絡を受けた指定管理者が現地に出向き、個体の止め刺しを行い、専用車で運搬。



（スライス加工商品）



（ペットフード商品）

効果

- ・狩猟者は、高齢化が進み、捕獲したイノシシの運搬作業が大きな負担となっていたが、指定管理者が止め刺し、運搬を行うことにより負担軽減につながっている。
- ・市内で捕獲されるイノシシ約2,000頭の約1割を施設で処理加工。これまでの個人処理と比べ、有効利用頭数が飛躍的に拡大。
- ・施設を整備したことにより、常駐者1名、繁忙期（臨時）2～3名の雇用を創出。
- ・施設を中心に獣害対策の取組を行うことで、地域が一つにまとまり、活性化に繋がっている。
- ・精肉の評判は上々であり、飲食店からの問い合わせも増えてきている。



（直売所（さの小テラス））

今後の目標

- ・直売所で販売している精肉、ペットフードの売り上げも順調であり、精肉のブランド化に向けた取組推進を図っていく。
- ・興隆寺地区を里山くらしの体験場「興隆寺ヴィレッジ」として整備中であり、ジビエ料理を中心とした農家レストラン、滞在型市民農園、キャンプ場等を、令和6年度から運用開始予定としている。これらの施設等を活用し、都市との交流人口を増加させ、淡路市の自然、食等に興味を持ってもらい、将来的には定住につなげていきたい。